

新春白部

発行
日本共産党
春日部市委員会
春日部市中央
7-10-9
電話 736-9933
FAX 736-9991

コロナ対策1300億円追加可決

知事・議員報酬削減 自民単独で否決



秋山文和県議会報告

9月県議会は10月14日討論採決を行い閉会しました。11件の知事提出議案と7件の議員提出議案を可決しました。

インフルワクチン 65歳から無料に

コロナ対策として計1300億円の補正予算が生まれ、65歳以上のインフルエンザ予防

ワクチン接種を無料にすることが決まりました。市町村補助分に乗せし本人負担をなくします。対象者190万人の8割を想定し12月31日接種分まで21億円。またコロナ患者を受け入れる空床補償を5万2千円から7万1千円に引き上げます。より厳しい感染拡大に備えるためコロナ専用医療施設の整備費37億円も盛り込みました。

知事が提出した「知事等の給与の特例に関する条例」は知事・副知事・教育長などの給与を3割から1割、年末まで削減し、コロナ対策基金に繰り入れるものでしたが、自民党が単独で否決しました。

また無所属県民会議が、民主フォーラム、日本共産党と事前に協議して議員報酬と期末手当を20%削減(年末まで)する議案を提出しましたがこれも自民単独で否決しました。

党議員団を代表して柳下礼子団長が一般質問を行いました。「新型コロナウイルス感染症の収束のために」「ひとり親家庭への支援強化を」「少人数学級の推進」「豪雨・複合災害対策」などを取り上げました。

保健師の増員図ると知事が約束

狭山保健所は管内人口78万人と最大です。かつて飯能・所沢・狭山の各保健所で計95人の職員がいましたが狭山保健所に集約し57人に減りました。

柳下議員は視察調査のうえで「狭山保健所で最大の時間外勤務をした保健師は4月に215時間、5月に137時間と過酷な勤務務だった」と紹介。元の3保健

所体制に戻すよう提案しました。

大野知事は「保健師の負担が過重なものとなっていたことはご指摘の通り。保健師の増員を図ったうえで、今後の保健所体制の整備について、しっかりと検討する」と約束しました。

「汚染水を海に流すな」請願は不採択

環境農林委員会(秋山文和議員所属)では「福島第一原発事故による多核種除去設備等処理水の陸上保管を求める意見書の提出を求める」請願を審議しました。政府が汚染水の海洋放出を計画していることから福島県漁連、宮城県漁連、全国漁業協同組合連合会など多数が大反対しています。

秋山議員は、「汚染水の海洋放出は国際的にも国民的にも同意は得られない」と請願採択を主張しましたが、賛成少数で不採択となりました。

うづき武彦議員一般質問

地球温暖化防止のためプラスチックの分別を
公共施設使用料の減額で市民活動を守れ



うづき武彦議員は、9月定例市議会の一般質問で①地球環境保全のための市の対策について、②利用人数制限に伴い公共施設使用料の減額・無料化を、について取り上げました。

CO2削減は緊急かつ
最重要な課題

資本主義の下で、資源を大量に消費し、大量の廃棄物を生み出し、環境破壊が進みました。最も深刻な問題が地球温暖化です。この

サーマルリサイクルは
リサイクルと認められない

ままでは、温暖化によって北極海の氷が解け太陽光を反射しなくなることや、永久凍土が解け温暖化ガスのメタンが放出されることなどで、温暖化が加速し、後戻りできなくなると言われています。二酸化炭素の排出量を削減することは緊急かつ最重要な課題です。

春日部市では、ペットボトル以外のプラスチックは分別せずに焼却しています。うづき議員は、その他の容器包装プラスチックも分別してリサイクルすべきではないかと質しました。

環境経済部長は、「焼却熱を利用して発電することでサーマルリサイクル（燃やして熱エネルギーとして再利用すること）を行っていること、売電が減ると電力会社が化石燃料を使って発電することになること、分別を行えば市民の負担が大きくなることなどから、分別・リサイクルを行う考えはない」と答弁しました。

サーマルリサイクルは国際的にはリサイクルとして認められていません。電力会社の発電は化石燃料とは限らず、再生可能エネルギーに切り替えていく必要があります。温暖化が進めば、分別の負担以上に、災害など市民生活に重大な影響があります。分別を行うことでプラスチックごみ減量化の意識を高めます。こうしたことから、分別を進めべきと主張しました。

コロナで市民活動が困難
な時だからこそ減額を

新型コロナウイルス感染症の拡大にともない、3密を避けるために、公共施設の利用人数が半分以下に制限されています。うづき議員は、市民活動や文化・芸術を支援するうえでも、利用料を減額するように求めました。

総合政策部長は、「利用人数にかかわらず、受益者負担の原則に基づいて負担していただいている」として減額は考えていないと答えました。石川市長は、「文化・芸術などは引き続き支援してまいります」と答えました。市民活動や文化・芸術が特別に困難な状況になっている時だからこそ利用料を減額すべきです。

救急電話相談#7119

市立医療センター Tel735-1261(夜間毎日、土・日・祝日)内・外

- 10/25(日) 春日部中央総合病院(内科系)緑町5 Tel736-1221 名越内科医院(小児科系)武里団地1 Tel735-6627 桜井整形外科(外科系) Tel761-6629
- 11/1(日) ふじクリニック(内科系)中央1 Tel754-5331 いぶき子どもクリニック(小児科系)大枝 Tel735-0854 彩都レディースクリニック(外科系)大枝 Tel731-1103

休日の当番医